

大手IT企業アイ・エヌ・イー（DeNA）が運営する医療系まとめサイト「WELQ」が、炎上の末に休止に追い込まれた。病名や症状などで検索すれば常に上位に表示されるほどの「人気」だったが、信ぴょう性に欠ける記事や他サイトの無断引用などが次々と発覚したのだ。こうした無責任な記事がなぜ上位に表示されていたのか。背景には、過剰なSEO（検索エンジン最適化）が、検索結果と情報の本来の価値を乖離させている現状がある。

# 検索「誘導」過熱 内容二の次

編集委員  
若江雅子

SEO Search Engine Optimizationの略で、グーグルなどの検索サイトでウェブページを上位に表示させ、閲覧数を増やすための対策。検索されやすいキーワードを入れたり、リンクを増やしたりするなど様々な手法がある。知名度やネット通販での売上高を上げたり、広告収入を増やしたりする目的で行う。

や下痢」の症状といった、特定の書かれた記事「大半は色と怒りの引用」と怒り自分のブログが引用されている。桑都内の医師、桑「著作権法に違

ける意図  
原文を出  
他の人の  
はぎし  
が、その  
変わって

## 「死にたい」

WELQは「ココロとカラダの教科書」とのキャッチフレーズで医療や健康、美容などの情報をまとめたサイトで、WELQ編集部や外部のライターのほか、ネットユーザーからの投稿記事などで構成。昨年10月にスタートし、今年10月には月の閲覧数が2000万件を超えた。しかし、ネット上で激しい批判を受け、11月29日に記事の公開中止に追い込まれた。

「今、死にたいと思っている人へ」と呼びかけた上で、「承認欲求が強い」「自己承認力を高めるには、自己分析が有効」などと勧め、診断テ

## DeNA医療系サイト「炎上」で休止

### 解説 スペシヤル

ストの広告に誘導する内容だ。SNSでは、「死を考える人に自己分析を勧めるのは逆効果」「かえって精神的に追い込む危険があるのでは」などの声が増えていった。

特に非難の的となったのが、この記事に「死にたい」と検索した人をターゲットにしたSEOが施されていた点だ。ページのソースコード（プログラム）をチェックすると、検索に引っかけられるキーワードとして「死にたい」「消えたい」などの言葉が埋め込まれていた。DeNAは取材に対し、編集部がSEO用のキーワードをライター側に提示していたことを認めている。

「死にたい」と検索するとトップ表示された記事だが、「死にたいと悩む人が読むには不適切」との批判が起きた

SEOのコンサルティング会社を営む辻浩氏によると、ウェブマーケティングの世界では「死にたい」

## 良質情報押し「上位」に

「自殺」という言葉の検索ニーズが高いことはよく知られているという。調査ツールを使えばグーグルなどで検索された件数はすぐ分かる。10月中旬に「死にたい」やそれに類似した言葉が検索された件数は42万9050回だった。「SEOはビジネスに有用」とする辻氏だが、「それでも、広告収入ありきのSEOで死を考える人を誘導するのはモラルに反する」と憤る。

### 「幽霊が原因？」

DeNAはこの記事の広告削除などで対応したが、その後も、科学的根拠を欠く記事や無断引用が疑われる記事が次々と見つかった。

妊娠中に服用できる風邪薬として葛根湯を「穏やかな効き目」などと推奨する記事には、漢方専門薬局から「主成分の『麻黄』は妊婦には良くない」（漢方みず堂）との異論も。肩凝りの原因を分析する記事では「幽霊が原因のことも？」といった記述もあった。

一般的な外食に関する話題なのに、△餃子の王将メニューでアレルギーは起きるの？『蕁麻疹やかゆみ』と『嘔吐

もある」  
例えば、日曜日の記事では「流水、オイルダウンしまかれています。が、事は「流水、オイルで20分ほびう」。桑満氏は「う」。桑満氏も「う」が薄い。読んだ知識を植えてる。

### 「まよ

WELQが提供した情報を、独自の視点で「まよ」を注目されている。例えば、女装ファッション情報を中心に、Yは、サイトがって同名の雑誌ほど話題を集ま

2016年10月06日更新  
人生に疲れたな、と思ったとき、自分の深層心理と対処法  
人生嫌な事たくさんあります。「もうごんごん」と思う出来事があれば「死にたい」。涙がたてよう目もあるでしょう。あなたがそんな感情を抱く事は決して間違っていない。むしろ人間的ではないでしょうか。死にたいと思う事は、「生きたい」と思っているからこそです。もし、あなたが自分の感情ばかりを抱いてしまっているのであれば、この記事で少しでも心が軽ければ嬉しいです。

961,823 views

今、死にたいと思っている人へ

誰もが一度は死にたいと思ったことがあるはず



SEOのコンサルティング会社を営む辻浩氏によると、ウェブマーケティングの世界では「死にたい」